

鎌ヶ谷市生涯学習審議会 平成29年度第3回会議 会議録

◎ 開催日時 平成30年2月21日（水） 9時45分～12時15分

◎ 会 場 鎌ヶ谷市立北部公民館 2階 会議室1

◎ 出席委員 13名

篠田繁会長、谷口隆子副会長、有川かおり委員、石田友和委員、伊藤眞由美委員、今村濃太委員、小林修一委員、佐藤克己委員、竹内春美委員、古川知己委員、細井和美委員、皆川成己委員、御代川泰久委員

◎ 欠席委員 2名

清松檜男委員、篠原勝委員

※鎌ヶ谷市生涯学習審議会の委員定数15名に対し、出席委員13名であり会議は成立した。

◎ 事務局 9名

青木生涯学習推進課長、大関生涯学習推進課主幹、三石文化・スポーツ課主幹、立野郷土資料館長、渡邊生涯学習推進課副主幹、吉野生涯学習推進係長、平澤市民会館主査、関企画調整係主事、田中企画調整係主事

◎ 傍聴者 0名

1 開会 （谷口副会長）

2 会長あいさつ

3 会議録署名人の選出

50音順に2名選出する慣例により、伊藤委員、今村委員に決定。

4 報告事項

①平成29年度生涯学習関係事業報告及び平成30年度生涯学習関係事業

～公民館のあり方について（フリースペースの活用報告）～

～事務局より資料に基づき説明～

【意見及び質疑応答】

委 員： 野球教室及び軽スポーツ事業とファイターズ鎌ヶ谷の会の違いは何か。

事務局： 野球教室は北海道日本ハムファイターズのファーム選手による、小学校4、5年生を対象にした教室であり、軽スポーツは、対象を市民と広げており、北海道日本ハムファイターズOB選手と軽スポーツを通して交流するものである。

ファイターズ鎌ヶ谷の会は、市民で結成された北海道日本ハムファイターズを応援する団体であり、ファイターズ鎌ヶ谷デーや新入団歓迎式典などを実施し、魅力をPRしている。

委員： 郷土資料館の市史編さん事業は終了したのか。

事務局： 平成29年3月に刊行物を発行し、現在は休止となっている。

委員： きらりホールのコンサートにおける来場者の年齢構成はいかがか。

事務局： きらりホールの自主事業で行うコンサートについては、60歳以上の年配者が多い。中高生の吹奏楽などの発表会では、親御さんたちや友人の来場が多いので、来場者の世代も若い。若い世代を取り込むことが、課題となっている。

②平成30年度社会教育関係団体に対する補助金交付について

～事務局より資料に基づき報告～

③平成30年度生涯学習推進基本方針（案）について

～事務局より資料に基づき報告～

【意見及び質疑応答】

委員： 先ほどのきらりホールの課題でもあったように、若い世代が参加するようなPRを進めてほしい。また、イベント・講座などで学んだ後に、それを活かす場づくりや、活用についてアドバイスできる人・場所があると良い。

事務局： この会議室の壁に掲示しているイベント情報を各公民館にも掲示しPRをしている。今、ご意見のあった若い世代を意識してフェイスブックにも同様の情報を出してみたが効果がみられなかった。若い世代へのPRを課題・要望として受けとめ、試行錯誤しながら実施していきたい。

委員： 若い世代へのPRのポイントは学校だと考える。学校と行政がもっと強く連携すると良い。そこも課題として取りあげていただきたい。

事務局： はい。

④審議会等出席状況について

～担当委員から資料に基づき報告～

5 協議事項

①鎌ヶ谷市生涯学習市民アンケート調査（たたき台）について

～事務局から資料に基づき説明～

【意見及び質疑応答】

委員： 前回のアンケートの世代別の回答数はいかがか。

事務局： 20代は39人、30代は45人、40代は58人、50代は67人、60代は87人、70代は63人です。

委員： 充実した設問だと思うが、前回より設問が少ないとはいえ、長いと感じた。高齢者の統計はあまり変化がないと思うので、要望として10代～30代からの回答を確実に回収してほしい。そのためには、わかりやすく、設問と文字が少ない方が良い。問3は選択肢が13もあるから、回答する側にたって考えなければならない。このアンケートは40分以上かかるかもしれない。

事務局： 回答の選択肢を少なくした方が良いか。

委員： 集計の事を考えると、選択肢が多い方が楽なのでしょうが。

事務局： 一つの選択肢の中に、あれやこれと回答が二つあると…

委員： 解析しやすいようになっているのはわかる。

委員： 楽しく生涯学習をしている写真を載せられないか。とっつきやすくなるし、PRも兼ねて、生涯学習を理解してもらえる。

事務局： 承知した。

委員： 流れるように回答でき、よく練ってあるアンケートだと感じた。個人的に問4、問10、問14は大切だと考える。最後に自由記載欄があるが、特に重要な設問のところに自由記載欄があると良いのでは。回答は簡単に、とは逆行するが。

事務局： 最後の自由記載欄のほかに、短い自由記載欄ですね。

委員： アンケートは、自然に次々と回答できた。これまでは、アンケートの調査結果にかかわるだけだったが、今回のように、アンケートの内容に携わるのは新鮮で良いこと。このアンケートは、市民の声をどのように活かすのかが重要である。結果を数字化するだけでなく、何かほかに良い方法がないかと考えたが難しい。

委員： 10代～20代と60代～80代が同じアンケートというのは、無理がないか。その世代に合わせた内容にして、アンケートを分けた方が良いのではないか。

委員： 生涯学習という言葉を知らない方が答えることもある、ということを念頭に置かなければならない。費用はかかってしまうが、アンケートの回答に協力してくれるかについて調査をして、協力してくれる人にだけに送付

をしたらどうか。

委員： 1 ページ目に写真を載せ、興味を持たせると良いのではないか。

事務局： 最初の表紙で心をつかむということか。

委員： そう。何だろう、と惹きつけ、それで設問に誘導する。

委員： 表紙で「第3次鎌ヶ谷市生涯学習推進基本計画」とか書かれていたら、そこで止まり、読む気がしなくなると思う。

事務局： 皆様のご意見から、10代20代の意見が大切だということと、表紙の見せ方の工夫が必要であることはわかった。また、キャッチコピーがあって、楽しさの中でアンケートに入っていけることが、改善すべき点とわかった。

申し訳ないが、費用や仕組み上、世代別に分けてアンケートを行うことはできない。アンケートは全て回収できると良いし、そのための工夫はするが、回収率から読み取れるものもあると考えている。

委員： 若者の生涯学習に対する考え方がわからないということだが、この審議会には中学・高校の校長先生がせっかくいらっしゃるので、総合的学習の中で何か別にアンケートをして協力していただくことはできないだろうか。

委員： 高校の場合は、全員が市内ではないが、市からこんな依頼がきているということであれば、協力できると思う。確かに生涯学習という言葉は、子どもたちに入っていない。興味を持たせるためには、生涯学習とはこんなこと、それが市政につながるということを表紙でもっとくだけて伝わるようにしないとしない。

委員： 生涯学習という言葉が浸透しておらず、中学生には距離があると感じる。選挙権が18歳になったことで、模擬選挙を実施したところ、非常に関心を持った。方法次第で子どもたちは関心を持つ。よってアンケートも可能ではないかと思う。

委員： 生涯学習というと多くは、老後の暇つぶしというイメージでしょうが、学校も家庭も職場も広い意味では生涯学習になると思う。現状はこうだが、それをどう変えていくのかが今後の課題になると考える。

委員： 回答した方に、景品をあげるのはどうか。

事務局： それがあるとまた、変わってくるかと思う。

委員： 確かに回収率や数字は大切である。ただ個人的には、肉声で書かれた自由記載のところが重要ではないかと思う。

委員： 「回答は、原則として封筒のあて名ご本人がお答えください。あて名ご本人が回答できない場合は、恐れ入りますがご家族や介助者の方などが、ご本人の意見に沿ってお答えください。」の文言について、高齢の方の場合で家族が代筆することを想定しているのだろうが、例えば18歳の子ども

の代わりに母親が回答したらそこにギャップが生じるので、確実な結果にはならないと思う。

事務局： おっしゃる通りこの文言は、ご病気で回答できない方や、体は不自由だが意思表示はできるという方を想定している。何か良い表現はないか。

委員： 私はこの一文で、高齢者が排除されていないことが嬉しかった。介護を受けていて、活動ができないからという考えで排除されていないことが良いと思う。

委員： この一文を否定しているのではない。この表現だと、代わりに回答していい、というように読み取れると思う。何か違う表現で上手く伝わると良いが。

委員： 回答数を3つ以内としぼっている設問があるが、何か意図があるのか。

事務局： 今後の取組みにあたって、優先順位の検討をするために回答数に制限を設けている設問があるが、回答しやすいように制限を付けない設問を多くしている。

10代、20代の若者にもわかりやすい言葉にしたつもりだが、もっと良い表現などがあったら教えていただきたい。

委員： 「伺います」をやめて、もっと親近感のある言葉にしたらどうか。楽しく、回答に導くような表現にしたらどうか。

委員： アンケートをしてみたが、私はそこまで時間がかからなかった。回答がないというのも、興味がないということで統計として読み取れる。全員からの回答を望んでいるのか。

事務局： 実態を知るといふ点からは、なるべく多くの回答をいただきたい。しかしそうならないことも承知している。市民意識調査は55.5パーセントの回収率で前回のこの生涯学習市民アンケート調査の回収率は36パーセントだった。前回は4月の新年度に入ってすぐに行ったため、時期が悪かったという反省点がある。大学の先生に言わせると36パーセントの回答があれば、概ね良いという話があるが、半数くらいの回答が欲しいと考えている。

事務局： 皆様の意見をお聞きして、内容については概ね悪くないとわかった。表紙などは思い切って、言い回しを含めて検討していきたい。生涯学習という言葉はどう面白く表現するか考えていく。

委員： 生涯学習に代わる言葉だが「市民の方々に対する市の支援活動」はどうか。

事務局： まだ固くないか。

委員： 若者に特化しすぎなくても良いのでは。若者にも、そういう言葉があることを知ってもらうことも大事である。

事務局： はい。生涯学習の言葉は残すようにする。

委員： 自分の活動が生涯学習なのかわかっていない人もいるので、アンケートで知ってもらうことも大事である。

委員： いっそのこと、今回は若者のみにアンケートを取ったらどうか。高齢者の回答はあまり変わらないと思う。

事務局： アンケートの読み取り方など、こちら側の技量が変わっている。仮に同じような結果だったとしても、今回のアンケートからあぶりだされる結果は変わると思う。

委員： 回収率よりアンケートから本質をつかむことが大事である。気持ちはわかるが回収率よりそちらに重点をおいてもらいたい。

委員： 今回のアンケートは、次の生涯学習推進基本計画や、地域の課題解決のためにおこなうものである。そうであるならば、全世代のアンケートが必要で、若者世代に特化しない方が良い。

委員： 先ほどの事業計画の報告でも、若者を呼び込むのが課題と言っていた。私はそことつなげて考えている。

委員： 私は無作為抽出が良いと思う。

委員： 若者や働き盛りの世代も関心がないなか、時間やお金も余裕のある世代からの回答が増えるのは当然だろう。そこも含めて幅広く色々な意見を拾わなければならない。また、前回のアンケートとの比較も必要なことである。こういったことを踏まえて、今日のたくさんの意見も考慮しながら進めていただくようお願いする。

6 その他

7 閉会（谷口副会長）

会議録署名人の署名

以上、会議の経過を記載し、相違のないことを証するために次に署名する。

平成30年 3月29日

氏名 伊藤 眞由美

氏名 今村 濃太